
サンタが感謝！

あゆみかん

PDF小説ネット
Byウメ研究所
<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

【小説名】

サンタが感謝！

【Nコード】

N8850C

【作者名】

あゆみかん

【あらすじ】

【コメディー／短編（読了約5分）】

今年は異常気象。そんな12月23日、クリスマスのイブイブ。おつかいの帰り道で、つまずいた僕の足元に転がっていたのは何だ。

サンタが感謝！

クリスマスから ちょうど一ヶ月前。僕あてに妙なハガキが届いた。それには、こう書かれていた。

『今年のプレゼントは ありません。 サンタクローズ 』

……何で??

今年10歳になる僕に、衝撃が走った。一体、誰のイタズラだろう。

そして今日は12月23日。イブイブだ。すっかり天気は寒気に走り、いつ雪が降っても おかしくない気候……の、はずが。

今年は異常気象だ。とにかく暑い。

旬の農作物や魚は旬に ならず、農家は悲鳴を上げ、海・プールといったレジャー施設は開きっぱなし。熱中病や食中毒で倒れる人数は日々 増加していき、全国規模で水不足、火災が発生。局所では、雷雨や集中豪雨などによる被害が……。

そんな、12月23日。

僕は、木村しんすけ。

お母さんに頼まれた おつかいを済ませ、片手にスーパーのレジ袋、もう片手には さつき自分の お小遣いで1回だけやったガチャガチャのフィギュアを握り締めて、帰路を急いでいた。早く帰らないと、5時からの『ガキレンジャー』が始まってしまふ。今日はクリスマススペシャルなんだ！ 見逃すわけにはいかない。

たまに走りながら、僕は曲がり角を曲がった。

……そうしたら、何か柔らかいものに つまずいた。そして転んだ。アスファルトの地面に見事に倒れ込んだ。舌を噛まなくて良かったと思う。

サンタが感謝！

「あいたたた……」僕は起き上がって、一体何につまずいたのかを確かめた。

何と、黒い服の人間。

太った体型の大きな人間が、うつぶせに、ひかれたカエルのように倒れていた。

「あのう……。もしもし？」

すりむいた鼻はヒリヒリしていたけど、どっかに飛んで行ってしまった。今はこの人に興味津々だ。

「もしもーし！」

「うう……。ここは……？」

僕の呼びかけに、寝覚めの声で返答した。ムクリと起き上がる。

まるでアンパンのような顔をした、恰幅のよさげな風格をしている男の人。黒い服と言ったけど、上下作業着だ。お兄さんというよりは、おじさんと呼ぼう。

「そうだ……。餓死しようとして、倒れてみたんだっけ。それより、干からびるのが先かなあ……」

そう言うおじさんの顔中、汗がびっちょりとへばりついている。時々、ダラダラと流れている。

ええ……。？ お腹がすいて倒れていたの？

「仕方ないなあ。さっき買ったジュース、あげるよ。おつかいの帰りなんだ。大人なんだから、しっかりしてよ。じゃあね。バイバイ」

僕は家に帰ってから飲むうと思っていたペットボトル飲料を、おじさんにあげた。僕はお母さんによく言われている。知らない人について行くなとか、物をもらうなとか……。物をあげるのは、まあいいか。

スタスタスタと、僕はおじさんを放って行った。するとおじさんが「キミ！ 待ちたまえよ！」と声をかけてきた。

僕が驚いて足を止めると、おじさんが突進して来た。僕は咄嗟とつぱにレジ袋から白ネギを取り出して、

サンタが感謝！

「ストップ！ ザ・誘拐っ！！」
と、心の中だけで叫んだ。ちなみに僕は学校では上の中くらいの成績だ。

「違う違う。そんな世の中みんな犯罪者みたく見るんじゃない。そうじゃなくて。お礼を言わせてくれ。ありがとう、少年。それから、今年は 恨み も込めて子供たちへのプレゼントは無し、と考えていたけれど。キミにだけ、プレゼントを差し上げよう。とはいっても、おじさん無一文だから。今から日払いのアルバイトを探してキミへのプレゼントを用意する。明日の晩を、楽しみに待っていてくれ」

おじさんは、チンプンカンプンな事を言った。僕が目を白黒させていると、おじさんはニカツと笑って歯を見せた。……歯周病に気をつけた方がいいよ。あと虫歯もね？ おじさん。

「まあいいよ。とにかく、明日の晩に届けよう。その次の日の朝を、楽しみにしていてくれたまえよ」

パチッ。

ウインクをした。おじさん、目ヤニが飛んだよ。

おじさんと明るく別れた後、家へ帰ると ちょうど『ガキレンジャー』が始まった所だった。僕は慌てて居間へ。TVの前で体育座りになって、画面に釘付けになった。

今日のガキレンジャーの敵は、黒サンタクロース。温暖化の影響で氷が溶け、北極に住めなくなった黒サンタクロースが人間に復讐しに やって来るのだ。

恨みを込めて……。

ん？ 恨み？

僕は何かが頭の中に引っかけたように感じた。でも すぐに気のせいかとTVの世界に戻っていった。

サンタが感謝！

(後書き)

【あとがき】

一足お先にクリスマス。

そして世間がクリスマスな頃には、お先に飛んでひなまつる。ピ
ヨ。

本作品は、読者様のご指摘により加筆・修正をしています。)

H19.11.6.)

ありがとうございました。

サンタが感謝！

サンタが感謝！

広告募集中

小説関連広告に最適です。
出版社や印刷会社はもちろん、
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくはPDF小説ネット広告募集をご覧ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8850c/>

サンタが感謝！

2009年6月25日16時34分発行